

アジア・シネマ・ウィークⅢ 選定作品

ASIA CINEMA WEEK Ⅲ

ここ数年アジア映画が注目を浴びており、各地の映画祭においても多くの賞を受賞しております。本映画祭でもアジア映画の上映を企画し、開催をしてまいりましたが、しかしまだまだ多くの秀作がアジア映画にはあります。そこで「アジア・シネマ・ウィークⅢ」として本年もこの映画祭を開催いたします。

新旧日本の秀作の上映、また韓国・中国の秀作の上映を通じてすばらしい作品を紹介するとともに、アジアに対する新しい発見や感動できる機会を提供できればと思います。

GO



監督：行定 勲/2001年/日韓合作/2時間3分
第123回直木賞受賞作、待望の映画化。杉原は生まれも育ちも日本だが、韓国籍を持ついわゆる「在日」。中学校までは民族学校に通っていたが、父の言葉に触発され、日本人と同じ高校へ入学した。彼の周りにはクセ者で溢れ、毎日彼らとつるむのも楽しかったが、杉原が親友と呼べるのは民族学校の秀才・正一(ジョンイル)だけだった。ある日、杉原は恋に落ち、いつかは言わなきゃいけない。でも、それで全てを失うはずだと思っていた。在日韓国人をテーマにしたこれまでのどんな作品よりもポップでグループ感に満ちた痛快青春娯楽作品。第25回日本アカデミー賞15部門受賞。

ペパーミント・キャンディ



監督：イ・チャンドン/1999年/日本・韓国/2時間10分
ある男の人生を20年にわたって遡る、切ない物語。一人の男の人生を通して、韓国の政治状況も冷静に見すえながら、選ばなかったことで失ってしまった大切な時間をつつと追って行く。日本のNHKと韓国の共同制作で、韓国の日本文化開放後、両国が最初に取り組んだ記念すべき作品。1999年の釜山国際映画祭では、自国の作品として初めてオープニングを飾り、世界の映画人の涙を誘った。第37回韓国・大鐘賞主要5部門独占受賞。

山の郵便配達



監督：フォ・ジェンチイ/1999年/中国/1時間33分
1980年代初頭、中国湖南省の山岳地帯。郵便配達を長い年月を勤め上げた男は、後継ぎとなる息子に初めて一緒に最後の仕事となる「旅」に出る。緑濃い大自然の中で繰り広げられる、この特別な旅は、父、母、息子・・・そして家族の絆を取り戻す旅でもあった。中国のアカデミー賞でもある1999年金鶏賞受賞。1999年モントリオール映画祭「観客賞」受賞、2000年インド国際映画祭で審査員大賞に当たる銀孔雀賞受賞。

リリィシュシュのすべて



監督：岩井俊二/2001年/日本/2時間26分
ウェブサイトで、一般参加者たちとの対話から物語を書いてゆくという、異色のスタイルで発表されたインターネット小説「リリィ・シュシュのすべて」が、岩井俊二監督自身の手で映画化された。田園が美しい地方都市で、窒息しそうな毎日をおくる十四歳の少年にとって、カリスマのアーティスト、リリィ・シュシュだけがリアルに存在する。インターネット、少年犯罪、いじめなど、現代的なテーマを内包しながら、少年の痛みと、焦燥、そして内面に隠れたイノセンスを鮮烈に描き出す。

まぶだち



監督：古厩智之/2000年/日本/1時間39分
サダトモ、テツヤ、周二はごく普通の中学生。厳格なスバルタ担任教師小林からは「人間にも満たないクズ」と言われている。しかし、夏のある日に起きた事件を機に彼らは変わり始める。監督の実体験及び観察から生まれた子供から大人への成長を扱った映画であり、そこで描かれているのは、大人になってからも記憶に残る、こうした時期の決定的瞬間である。2001年第30回ロッテルダム国際映画祭グランプリ(タイガーアワード)と国際批評家連盟賞のダブル受賞に輝いた。

優秀映画作品



くちづけ 1957年 大映(東京)

増村保造監督の記念すべきデビュー作。原作は典型的なメロドラマだったが、増村監督は人間の意志と情熱を強調し、男女の青春のエネルギーが発散する挑戦的な映画に作り上げた。乾いた叙情によって一種戦後イタリア映画の秀作をも思わせるこの作品は、当時の日本映画に対する一つの「宣言」であったとも言えるだろう。演技の面でも、主演の川口浩と野添ひとみが、不幸な家庭環境に抗してまっすぐな青春を生きる男女を演じ、みずみずしい魅力を放っている。



にっぽん昆虫記 1963年 日活

波乱に満ちた女性の半生を、粘っこくエネルギーに綴った今村昌平監督の代表作。今村監督は、尽きることのない人間の生命力を一貫したテーマとしているが、この映画ではその生命力を「昆虫」になぞらえている。この作品を計画するにあたって、ある実在の女性からその人生経験をとことんまで聞き込み、その中から脚本を練り上げる手法を取ったという。母娘に扮した左幸子と吉村実子の熱演もあり、リアリズムを突き抜けた独特の世界が築き上げられた。



心中天網島 1969年 表現社(ATG)

近松門左衛門の有名な人形浄瑠璃を映画化した、松竹出身の篠田正浩監督の代表作。中村吉右衛門演じる治兵衛が妻を捨てて遊女との情死行に至るまで、愛の情念が狂おしく燃える様を描くこの物語を脚本化するにあたり、監督は詩人・作家の富岡多恵子と作曲家武満徹の協力を仰いでいるほか、成島東一郎による撮影が、映画の空間に立体性を与えているのも見逃せない。



青春残酷物語 1960年 大映(大船)

大島渚監督の初期の代表作で、中年男から金を巻き上げる犯罪を重ねて破滅に向かってゆく若い男女の欲望と行動を、旧世代の人間たちの生き様と対比させながらストレートに描写した。性と暴力を重要なテーマとしたこの作品は1960年の安保闘争のさなかに公開されたが、鬱積した心情ややりきれなさを感じていた若年層の強い共感を呼び、当時の社会状況に対する新しい世代の「怒り」を叩きつける形で興行的にも成功している。

「門田龍太郎」と「K2ワールド」 萩市出身の映画人の顕彰《第1回》

門田龍太郎 (もんでんりょうたろう) (昭和9年：1934年8月7日生・萩出身)
世界でも広く知られた日本の代表的ドキュメンタリー映画作家である。過去十数年、アマゾン探検3回、サハラ砂漠、アフリカ4回、シルクロード、ニューギニア等、地球の片隅に残された秘境や人間を撮影し続けてきた。51年、制作・監督・脚本の「チェチェメ二号の冒険」は文化庁優秀映画奨励賞や優秀映画鑑賞会特選、キネマ旬報ベストテン第1位に選ばれる。世界の最も代表的な氷河の源にそそり立つカラコルム山脈の高峰K2(8611m)の登山に特別編成された日本隊員47名が夢とロマンをかけて挑戦した姿を克明に描く「白き氷河の果てに」を企画・監督し、東宝東和50周年記念映画として完成、53年。文化庁優秀映画奨励賞受賞、文部省特選、優秀映画鑑賞会特選、数多くの栄誉に輝いていた。他に45年「海を拓く」、47年「海にかける虹」も産業映画奨励賞を得ている。テレビでは「素晴らしい世界旅行」「驚異の世界旅行」のシリーズ等を手がけた。

東宝・東和50周年記念映画
白き氷河の果てに 35分・122分・ビスタビジョン・1978
文化庁優秀映画奨励賞受賞、文部省特選、優秀映画鑑賞会特選



パキスタンと中国の国境にまたがり、世界の最も代表的な氷河の源にそそり立つカラコルム山脈の高峰K2：8611m。特別編成された日本隊員47名が夢とロマンをかけて挑戦した姿を克明に描き、登頂成功までの全行程を記録した長編ヒューマンドキュメント。

チェチェメ二号の冒険 35分・85分・シネマスコープ・1976



第11回ツーロン国際海洋探検映画祭グランプリ受賞、キネマ旬報ベストテン第1位(文化映画賞)、文部省特選、優秀映画鑑賞会特選、日本PTA全国協議会特選、フジフィルム技術賞

ミクロネシアのサタウル島という周囲6kmの小島の島民6人が、コンパスも海図も持たぬ先祖伝来の航海と手作りカヌーを操って3000kmの海を越え、沖縄海洋博会場にたどり着くまでの冒険を追った、勇気、知恵、そして人間とは何かを強く問いかけてくる作品。

話題作品(ツイン・シネマ会場)

ムーラン・ルージュ



©2001 TWENTIETH CENTURY FOX

監督：ハズ・ラーマン/2001年/アメリカ/2時間8分
時は1899年。舞台は悪名高く、派手で魅惑的なパリのナイトクラブ「ムーラン・ルージュ」。サティーンは、輝くダイヤモンドと謳われるムーラン・ルージュのスターにして、最も有名なコーティザン(高級娼婦)。彼女は貧しいが才能ある若いクリスチャンと運命的な恋に落ち、やがて美しくも悲劇的なクライマックスへと突き進んでいく。主人公サティーンとクリスチャンを演じるのは、ニコール・キッドマンとユアン・マクレガー。この映画では、物語を伝えるための歌が重要な役割を果たしている。現代のポップスが19世紀末の舞台上に散りばめられている。第54回カンヌ国際映画祭オープニング作品。

上映スケジュール

Table with columns for dates (16日, 17日, 18日) and times (10:00, 11:00, 12:00, 13:00, 14:00, 15:00, 16:00, 17:00, 18:00, 19:00, 20:00, 21:00). Rows list movies like 'チェチェメ二号の冒険', '白き氷河の果てに', 'ドラッグ', '青春残酷物語', 'にっぽん昆虫記', 'リリィシュシュのすべて', 'くちづけ', '心中天網島', 'GO', 'まぶだち', '山の郵便配達', 'ペパーミント・キャンディ'.